

2012年夏

絵柄とメッセージを刻み
流失後の基礎の上に設営。

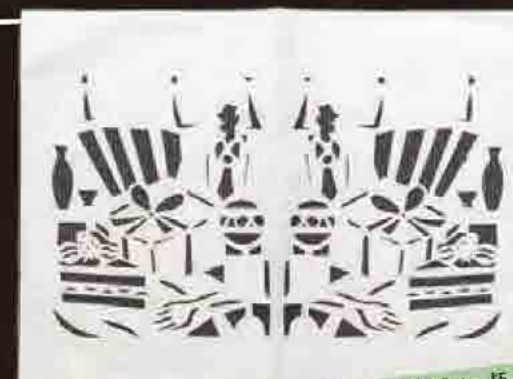
各家々の方たちの今の姿を届けようと
すべてのボードを海に向けて展示した

ここで生きて来た、そして生きていく
その生き方のひとつひとつを讃える

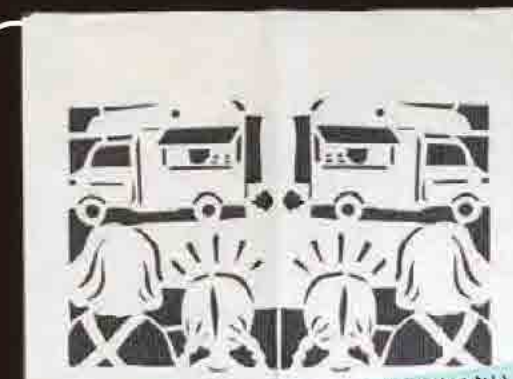




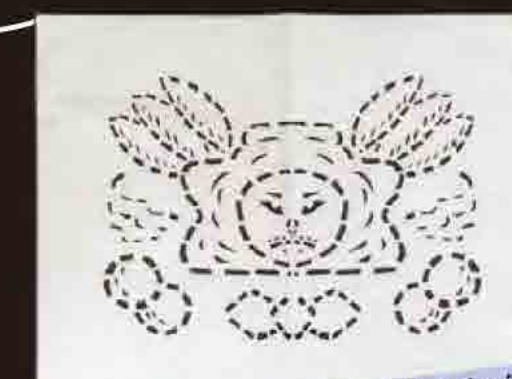
【サト一園芸（志津川）】みんなの心に花を咲かせたい。そんな思いで花屋を続けています。



【雄新堂（志津川）】震災前、雄新堂の隣の酒場で一杯飲んだお父さんが、お土産のケーキを買って帰るやうに、お土産のケーキを安く提供し続けていました。お主人は何時かのケーキを安く提供し続けています。



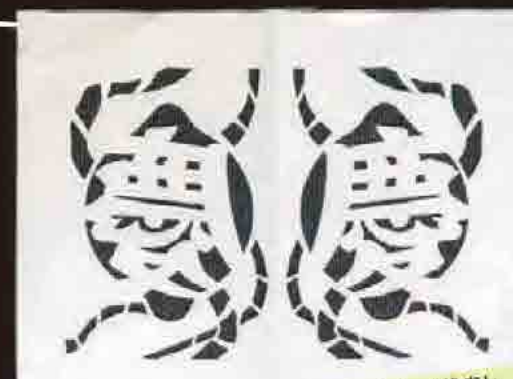
【お彩（志津川）】震災後、お主人は移動販売車でおいしい野菜を、町のあちこちに売りに行きました。販売車が出たとき、みんなが楽しみに待っていました。



【及善商店（志津川）】潰された製菓工場に飾ってあった、お菓子の型紙を見守っていました。今もどこかでみんなを見守っています。



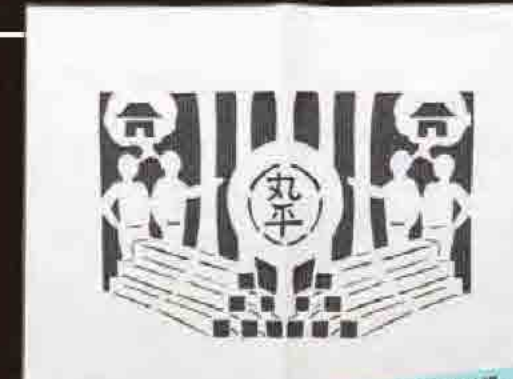
【高茂商店（志津川）】野菜や牛乳を扱っていた店の歴史。夏には変わった昭和の頃のフルーティーな思い出。夏には変わった昭和の頃のフルーティーな思い出。カラオケ好きだったお主人を思い出しています。



【豊明丸（戸倉）】津波でアラスカまで流された、農産物。ストランの名前を聞いた「豊」の字が奇跡的に残っていました。「豊」は店主のときお主人の名前の一文字です。



【高橋商店（荒砥）】源さん一家が育てるホヤは最高の品質。ホヤを収穫したら、すぐに家族総出で殻をむく。お土産の「梅」印は、源さんのお父さんの名前の一文字です。



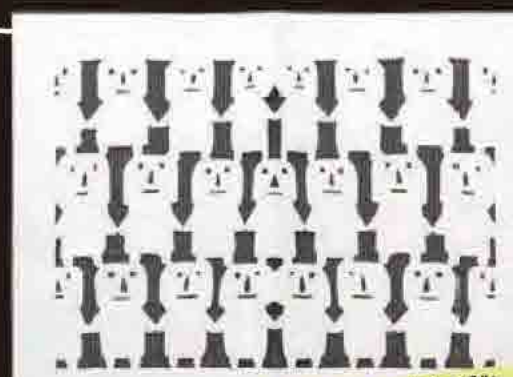
【丸平木村（志津川）】南三陸産の良質な杉はここで乾燥、製材されます。みんなの家の大黒柱や内装材に、最高の木材を提供し続けています。



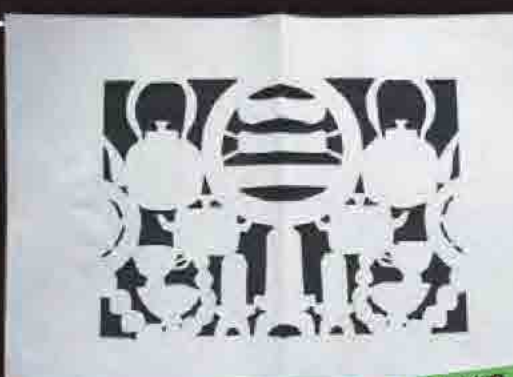
【かね久商店（志津川）】創業100年以上の老舗海産物店。先代は数代でなくお父さんで作り継ぎ、おいしいお寿司や、お漬物などを手広く売っています。



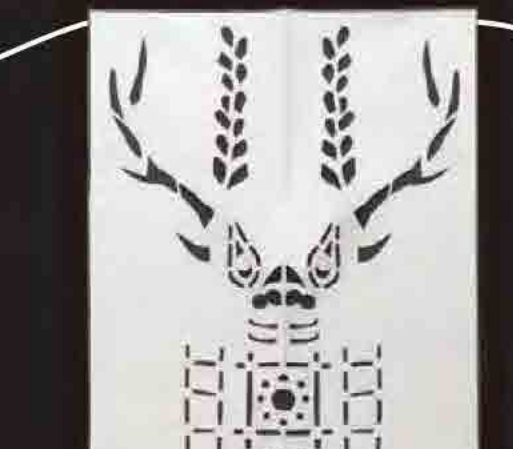
【戸倉つとむ（戸倉）】震災後、戸倉の漁師たちが団結して日本発のかき養殖での国際認証を取得しました。戸倉の自然を象徴するタマノキをかきを表しました。



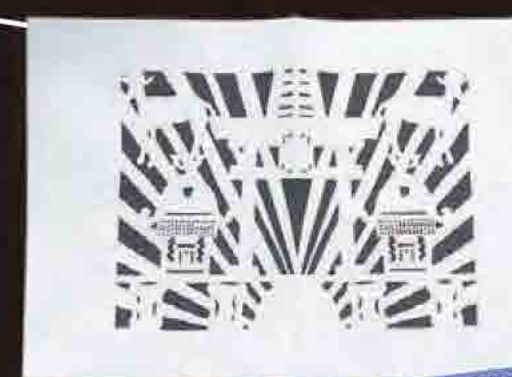
【のそみ福祉作業所（志津川）】知的障がい者の就労支援作業所では、かわいいマイイの字サインのタオルなど、人気商品が作られています。みんなで仲よく頑張っています。



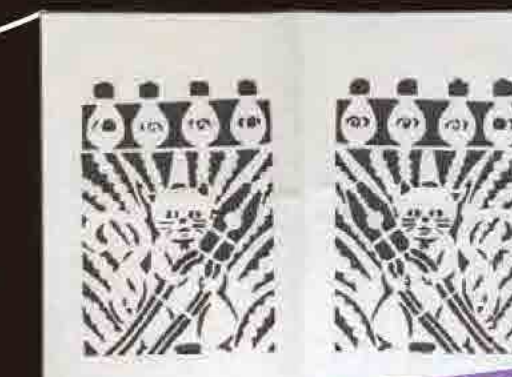
【三島商店（歌津）】伊里前にあったお父さんでは食器や陶器など、お土産の陶器を売っていました。津波で全壊した店には不思議なことに近隣の家の包帯がいくつも集まっていました。



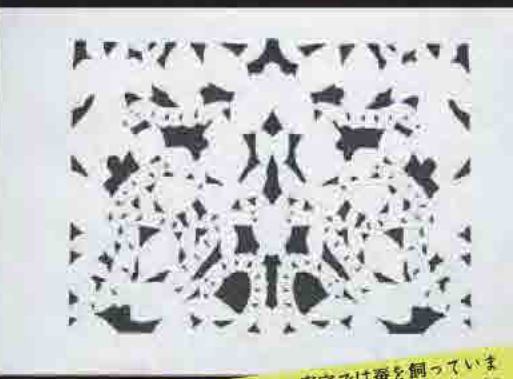
【行山流木戸辺鹿子蔵（戸倉）】南三陸の水戸辺村で始まった鹿子蔵。約25年前、地域に復活。震災の危機を乗り越えて、集落の人々によって継承されています。



【三浦さよさん（歌津）】昔、三嶋神社の御神輿が家の目の前で止まりました。お父さんの夢を叶えました。当時伊里前の港で、お父さんがお父さんの夢を叶えました。お父さんの夢を叶えました。



【ナカノ電気商会（歌津）】震災前に飾っていた白ネコのイラストが、ペンチで壊れています。お店の壁にはラベンターの大きな鉢もあり、いつも花を咲かせていました。



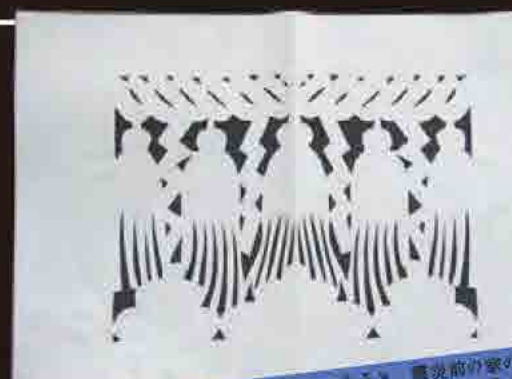
【佐藤としよさん（入谷）】戸倉の東家では巻を巻いていました。家は何段もの巻物だらけで、人の方が壊れていました。いつも巻が巻く音がしていました。



【川崎節子さん（志津川）】川崎さんが働いていた南町の店は、震災で壊れました。当時は手作りで作っていました。



【佐藤つとむさん（入谷）】子どもが、夜遅くまで走りまわっていました。疲れていて、暮らした際には家族総出で働くことがありませんでした。



【小野寺の工場（歌津）】お正月になると、震災前の店の玄関に、お父さんが作った立派な注連縄を飾っていました。



【えは池 宗博（志津川）】震災前のお父さんにはこんなお宝が飾られていました。すべて流されてしまいました。流れてお宝を再建しました。



【阿部とさ子さん（志津川）】屋号は山長、八幡川で授けられたお宝。うなぎやアユ、ヤマメなどいろいろな魚が飾られていました。



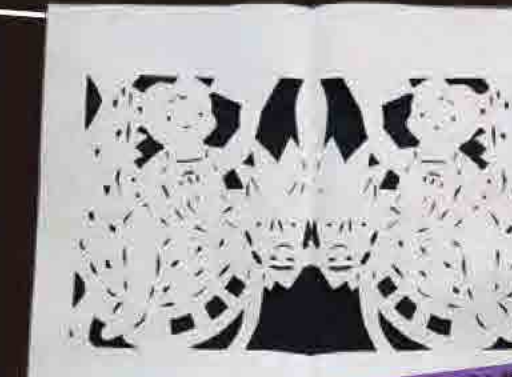
【渡辺みゆ子さん（歌津）】歌津住宅で暮らしていたとき、反響の先生がカラオケ教室に参加しました。みんなを歌ったときは本当に楽しかったです。



【斎藤幸子さん（志津川）】お父さんがワカボシ漁船に乗るとは見送りに行きました。一度船に乗れば、8か月は離れられた生活でした。



【わたで（志津川）】震災後、お父さんのお宝を大切に保管していたお宝。お宝の物語は、お父さんの思い出です。



【子達のりた（志津川）】志津川お宝の思い出。お宝の物語は、お父さんの思い出です。

町民の人生のエピソードを切り紙にするプロジェクトは今も続いている

再建された役場や病院には
きりこ柄のパーテーションが
設置されている。





さまざまな地場産品にも
きりこ風の絵柄が登場。
「きりこ」は南三陸町の
世界観を表すアイコンに。

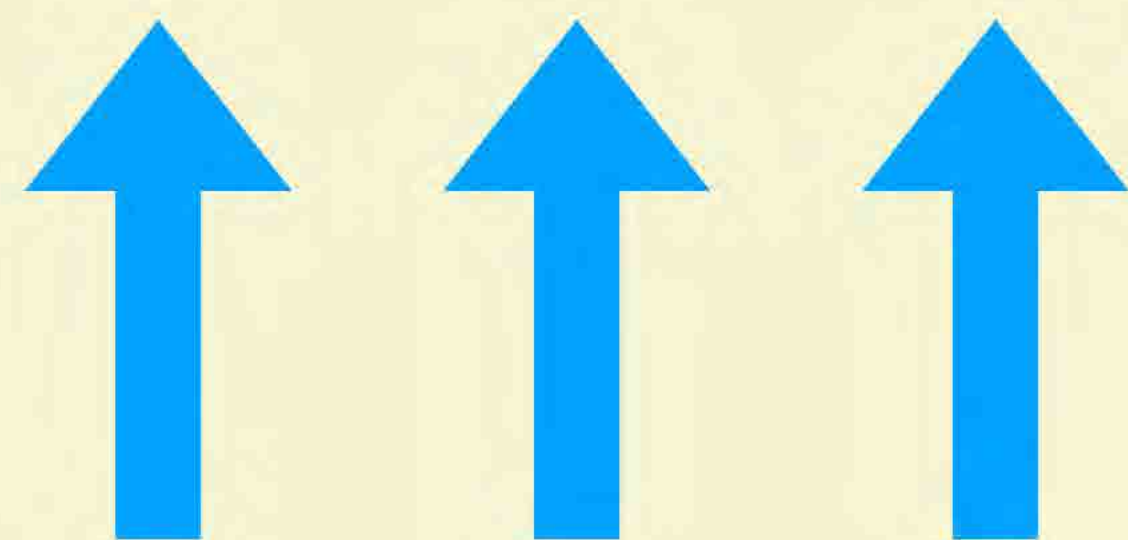


ささやかなプロジェクトが
南三陸町のブランディング
に貢献

地域固有の文化

地域らしさ
固有の文化景観
独特の風習や祭り

=人々を魅了する
目に見えない
固有の文化資本



日常のさまざまな営み
=水面下で
つくられる
地域の文化基盤

エンパワーメント



アートプロジェクト
が新たな視座を
人々に与える

- 地域の文化を再認識
- 新たな価値を発見
- 自らの存在価値や自己肯定感を得る

八戸三社大祭



ユネスコ無形文化遺産

